σημεῖον
セーメイオン

# 知っておきたいキリスト教のことば （106）

## 徴 しるし

「しるし」とは、神さまから遣わされた人がそのことを知らせるために、奇跡などをおこなうことを指します。たとえば旧約聖書の出エジプト記の中に、このような記述があります。

*主はモーセとアロンに言われた。「もし、ファラオがあなたたちに向かって、『奇跡を行ってみよ』と求めるならば、あなたはアロンに、『杖を取って、ファラオの前に投げよ』と言うと、杖は蛇になる。」*

この「杖が蛇になる」ということ自体は奇跡ですが、このことを通して主が働かれているということを示す「しるし」だと考えることができます。

マタイ・マルコ・ルカ福音書ではイエス様に対して、ファリサイ派や律法学者などが「しるし」を見せるように迫ります。つまり、「あなたが本当に神の子であるなら、その証拠を見せてみろ」というわけです。それに対してイエス様は、「預言者ヨナのしるしのほかには、しるしは与えられない」と答えます。

それに対してヨハネによる福音書には、イエス様が「しるし」をおこなったという記事が書かれています。その一つが「カナの婚礼」の物語です。

この物語の中で、イエス様はユダヤ人が清めのために用いていた水をぶどう酒に変えます。ユダヤ人にとって汚(けが)れから身を守るための水が、喜びの祝宴に欠かせないぶどう酒になるのです。この物語から、神さまは人を分け隔てすることなく、あふれる恵みを与えてくださる方だと、わたしたちは知るのです。

そして最大のしるしが、イエス様の十字架と復活です。この出来事こそ、神さまがわたしたちを愛してくださっていることを示す「しるし」なのです。

次回は「信仰」です。お楽しみに。

*「カナの婚宴」*
カール・ハインリッヒ・ブロッホ
（1834～1890 年）

イエスは、この最初のしるしをガリラヤのカナで行って、その栄光を現された。それで、弟子たちはイエスを信じた。

（ヨハネによる福音書 2 章 11 節）